

事務局長談話

令和6年10月16日

被団協のノーベル平和賞受賞を喜ぶたい

核兵器廃絶・平和建設国民会議
(略称 KAKKIN)
事務局長 岩附 宏幸

今年のノーベル平和賞が、被団協（日本原水爆被害者団体協議会）に送られることが決まった。核兵器廃絶という同じ目標を掲げる団体の受賞であり、ここからお祝いを申し上げたい。

1954年の第五福竜丸事件（注）をきっかけとした国内の原水爆禁止運動の高まりの中で、被団協は広島や長崎で被爆した人たちの全国組織として1956年に結成された。以後68年間にわたり、被爆者の立場から核兵器廃絶を世界に訴える運動を続けてきた。

ノーベル平和賞の選考委員会は、被団協の受賞理由を「広島と長崎の被爆者による草の根運動の、核兵器のない世界を実現するための努力と、核兵器が二度と使われてはならないことを体験者の証言を通じて示してきたことに対して」と説明している。またあわせて、いつか被爆者が存在しなくなるときを念頭に、被爆者の体験を継承することの重要性も指摘した。

ノーベル賞を創設したアルフレッド・ノーベルの遺言によると、ノーベル平和賞は「国家間の友好的関係、常備軍の廃止や削減、平和の集いの開催や促進のために最大限・最善の貢献をした人物（組織や個人）」に与えられるもので、1901年から今年まで、111の個人、31の組織・団体に贈られている（ノーベル財団）。平和賞は、達成された平和への貢献を評価するだけでなく、世界平和への危機や課題に対する警鐘や今後の取り組みに対する期待も反映されているという。世界の核兵器をめぐるのは、ロシアの核兵器使用示唆、中国の核弾頭増強、北朝鮮の核開発など「核兵器の脅威は、冷戦期の最も緊迫した時期以来」（グテーレス国連事務局長）という厳しい状況が続いている。こうした出口の見えない閉塞的な状況にあって、今回の被団協が平和賞を受賞することは、核兵器廃絶運動の大切さ、必要性が世界に認められたということであり、その意義は大きい。

KAKKINはこれを契機として、改めて核兵器廃絶に取り組む強い決意をもって行動していく。

（注）第五福竜丸事件

1954年3月、太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験により、付近で操業していた静岡県のマグロ漁船「第五福竜丸」の乗組員が被爆した事件。なお、この水爆実験の海域には「第五福竜丸」以外にも静岡県や高知県の1000隻あまりの漁船が操業しており、その多くが被爆したと考えられている。

以上